
記憶の向こう

美郷 昴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶の向こう

【Nコード】

N0018BA

【作者名】

美郷 昴

【あらすじ】

小さな国の中にある大きな森の奥には古びた扉がある。その向こうは魔法使い達が住む世界。ある夏の日見知らぬ女性を少女が助ける。主人公の青年はその女性から驚くべき事実を聞かされる。

Memory

昔この国には多くの魔法使いが住んでいた。人間と魔法使いは仲良く暮らしていたが、やがて彼等の能力を己の欲の為に利用しようとする輩が現れた。そのことに腹を立てた魔法使い達は森の奥に扉を作りその向こうに消えたと言う。

僕の住む国には大きな森がある。その奥深くに一つの古びた扉があるらしい。僕はその扉の向こうに何があるのか知らない…。

騒ぎ声でカイトは目を覚ました。

家の窓から外を見るとたくさんの人達が空を見上げている。

「そうか、今日は村の夏祭りだった…。」

様子から察するにどうやらこれから祭の目玉である花火打ち上げるところだろう。

「懐かしいなあ。小さかった頃はよく母さんと近くの川まで見に行っていたっけ。」

そんなカイトの思考を遮るように爆発音のようなものが聞こえた。

「花火が始まったか。」ベッドから降りるとカイトは家を出た。

Search

花火が夏の夜空を彩る。それを見ている人々の表情は嬉々としている。

「おい、カイト！」

聞き覚えのある声が聞こえた。

振り向くと友人が駆けて来るのが見えた。

「ユウ、久しぶりだな。元気だったか？」

「おう。元気に決まってるじゃねえか！カイトとはおばさんの葬式以来だから1年ぶりくらいか？」「ああ。」

「何かあったら言えよな。力になるぜ。」

「ああ、助かるよ。ところでお前はこんな所まで何しに来たんだ？」

「特に何も。ただ広場に居ないようだったからどうしてるのかなあ
つて。」

「わざわざ村のはずれまで迎えに来たのか？」

「まあ、な。」

大方話し相手もなく暇だったのだろう。普段カイトは用事がなければ家から出ない。口下手で人と関わるのが苦手だからだ。そんなカイトの傍にいたせいか、ユウにもあまり友達がいない。昔からずっと一緒だった。

「アリアは？誘ってないのか？」

アリアは二人の昔馴染みで一緒によく遊んでいた。

「それが此処に来る前に家に行ってみたんだか留守だったんだよ。」

「そうか。」

「とりあえず広場行こうぜ。アリアもいるかもしれないだろ。」
「そうだな、行ってみるか。」

二人は広場に向かって歩き出した。

少女は友人の家に行く途中不穏な気配を感じた。気になって気配のする方へ向かった。このまま行くと森に行き着く。

「どうしよう…。」

夜の森にたった一人で入るのは怖いが沸き上がる好奇心を抑えることは出来なかった。

「よし！」

両手で頬を叩いて気合いを入れると森に足を踏み入れた。

どれ程歩いたのだろうか。気がつくとも随分奥に来ていた。

「まずい…。無事に帰れるかな。」

目の前には古びた扉があった。気配は此処からしていたようだ。

「何だろう？今までなんともなかったのに。」

少女が扉に触れた瞬間稲妻のような光を発した。視界が白く染まる。暫くすると光は止んで、代わりに一人の女性が扉の前に倒れていた。

「嘘！ちよつと、大丈夫ですか？しっかりしてください！」

女性はぐったりとしていたが確かに呼吸していた。気を失っているらしい。

「とにかく、何処か休める所に…。そうだ！」

このすぐ近くに小さな小屋があったはずだ。そこへ運ぼう。

少女は女性を抱えて歩き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0018ba/>

記憶の向こう

2011年12月31日18時45分発行